

特別支援教育について

1 特別支援教育について

子供たち一人一人の自立や社会参加に必要な力を培うため、子供一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服できるよう、支援・指導を行うものです。

特別支援教育は、お子様の可能性を最大限伸ばすことを目指しています。



2 本校の特別支援学級について

新曽北小学校の特別支援学級の名称は、『さくらそう学級』です。令和6年度は、1年生から6年生まで、4クラス21名の子供たちが在籍しています。

一人一人の実態に合った学習の内容や方法を計画し、時間をかけてじっくり学習をしたり、コミュニケーションの取り方を学んだりしながら、さくらそう学級のスローガン「なかよく・たのしく・あんげんに」を大切に、学校生活を送っています。

3 本校の特別支援学級における「交流及び共同学習」について

さくらそう学級の児童一人一人の『交流する通常学級（交流学級）』を決めます。交流の内容は、一人一人の実態に合わせています。（各教科の学習や給食の時間、運動会や校外学習などの学校行事、たてわり活動やクラブ活動、委員会活動など）

障害のあるなしに関わらず子供たちが一緒に活動することを通して、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、互いを尊重し合う大切さを学ぶことができます。



入学後、気になることがある際は、学校へお気軽に御相談ください。9月（予定）に担任と保護者の「個別面談」を実施します。その他にも年に4回（予定）「教育相談日」を設けています。事前に手紙が配付されますので御覧ください。担任以外に、管理職や学年主任、養護教諭、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーターなどと相談することもできます。



「困っている子供」に気づき、理解し、寄り添います



「学習がなかなか定着しない。」「友達とトラブルばかり。」などということがあったら、もしかすると、自分だけでは解決できない学習面や行動面の困難を抱え、本人が「生きづらさ」を感じ、困っているのかもしれない。家庭でのしつけや本人の努力などが原因なのではなく、お子さんの特性が関係していると考えられます。

まずは、特性を知るために行動観察や情報交換などを通して、どこでつまづいているのかを考えることが大切です。学校、家庭、場合によっては医療と連携してお子さんに寄りそった支援と一緒に相談していきたいと思います。